

1・6 調査研究に対する外部評価

当所の調査研究について外部の意見を聞くことにより県民ニーズに合致した効率的・効果的な研究業務の遂行とその透明性の確保を図るため、外部評価委員会による評価を行った。

○開催日

平成27年10月29日（木）

○委員

学識経験者等5名

○評価対象

(1) 成果評価（調査研究の目的の達成度、行政施策への寄与度等）を評価）・・・1件

(2) 中間評価（調査研究の進捗状況、継続の妥当性等）を評価）・・・なし

(3) 計画評価（計画段階で調査研究の目的、内容の妥当性等）を評価）・・・なし

○評価方法

項目別評価、総合評価とも次の5段階で評価する。

5：非常に高く評価できる。

4：高く評価できる。

3：評価できる。

2：あまり評価できない。

1：評価できない。

○評価結果

下表のとおり

(1) 調査研究課題	
熊本県における日本脳炎ウイルスの活動状況調査及び遺伝的変異サーベイランスの確立に関する研究（研究期間：平成24～26年度）	
(2) 項目別評価	
①調査研究目的の達成度	4
②衛生行政・環境行政施策への寄与度	4
③学術的意義又は技術開発への寄与度	5
④県民ニーズへの波及効果	3
⑤今後の発展性	4
(3) 総合評価	
総合評価 4 科学的根拠に基づき注意報発令の基準を見直し、患者発生の前に注意報を発令するという目的は達成できている。行政施策への寄与度も高い。	
(4) 委員のコメント	
①大陸型と日本型のコガタアカイエカを迅速に安価で鑑別できる方法を確立したことの学術的意義は高い。この成果を専門誌等に投稿して多くの研究者に知らせ、他県にも鑑別法を広めてもらいたい。	
②研究成果を県内部で共有し、県民への注意喚起の方法等を検討することが必要である。	
③注意報を早く発令できても患者が発生しないことが大事なので、ワクチン接種と絡めて分かりやすく注意喚起するなどの工夫が必要である。	
④たとえ患者が少なくてもリスクがあるのであれば、危機感を持って県民に広く分かりやすく情報を伝え、注意を喚起することが必要である。	
⑤患者が年に1人発生するかどうかという中で、注意報発令を早くできるようになったことの効果がどれ程のものかは疑問である。	
⑥他県と共同で調査を行い、あるいは他県の状況を調べて調査結果を比較すると、疫学調査として非常に有用なものになる。学術的な意味でも研究に広がりが出てくる。	
⑦研究所の研究全般に言えることだが、成果を積極的に外部に発信する体制を整え、関係機関と連携して対策にあたってもらいたい。	
⑧大陸からの蚊の飛来と気流の流跡線とを関連付けて説明するのは慎重にしたほうがよい。	